

## 議事録(大要)

令和4年(2022年)9月21日

於.吹田市水道部 第二別館 研修室

【出席者】 尾崎委員、近藤委員、原委員、松田委員、山野委員、東委員、石井委員、乾委員、岸委員、木田委員、澤田委員、杉村委員、玉谷委員、中委員、藤木委員、藤本委員、由佐委員

【欠席者】 赤井委員、糸瀬委員、曾我委員、田口委員

【傍聴者】 なし

### 議事

- 1 すいすいビジョン2029に基づく2年間の事業報告について
- 2 第13次吹田市水道事業経営審議会を振り返って

**事務局** 定刻になりましたので、ただいまより第13次水道事業経営審議会第4回の会議を開催いただきたいと思います。本日はあらかじめ、赤井委員、糸瀬委員、曾我委員、田口委員から欠席の御連絡をいただいております。それでは会議に先立ちまして、会長から御挨拶をいただきます。会長よろしくお願いたします。

**会長** (挨拶)

**事務局** ありがとうございます。議事に先立ちまして、事務局から傍聴者の報告と資料などの確認をさせていただきます。本日の傍聴希望者はいらっしゃいません。

(資料確認)

本日の会議は、常時、窓を開けて換気し、また、密を避けるため一部の理事者は別室からオンラインにて出席しておりますので、御了承いただきますようお願い申し上げます。

ここからの議事につきましては会長にお預けさせていただきます。原会長よろしくお願いたします。

**会長** それでは議事に入りたいと思います。本審議会は議事の公開が原則になっています。本日の傍聴希望者はいらっしゃいませんが、あらかじめ御承知おきください。それでは、次第に沿って進めていきたいと思います。まずは、次第の3番「すいすいビジョン2029に基づく2年間の事業報告について」を事務局から説明してください。

事務局 (すいすいビジョン2029に基づく2年間の事業報告について説明)

会長 御説明ありがとうございました。ただいま事務局から「すいすいビジョン2029に基づく2年間の事業報告について」の説明がありました。ここまでで何か御質問や御意見がございましたら、御発言願います。

委員 先ほどの説明にありました水道水の安全性について、住宅の設計を仕事としている関係で、キッチンを選ぶ際に浄水器を付けるべきかよく聞かれます。浄水器を付ける場合と付けない場合で、水道水にどの程度の違いや変化が生まれるのか教えていただきたいです。

事務局 水道水を作っていく過程で、川の水や地下水を綺麗に浄化していきますが、最後に注入する塩素で消毒することによって水道水の安全性を確保しております。一方で、多種多様な浄水器があると思いますが、塩素を取ってしまうということも考えられます。従いまして、私どもとしましては、塩素が効いている状態でお使いいただくことが最も安全であると考えております。

会長 他にいかがでしょうか。ぜひこの機会に御意見をいただきたいと思っております。

委員 強靱化についてお尋ねします。法定耐用年数が経過した管路はまだ残っていると思いますが、最終的にどのくらいの年数で新しい管と交換できるのでしょうか。

事務局 管路につきましては、铸铁管やダクタイル铸铁管、鋼管、塩化ビニール管、ポリエチレン管など様々ありますが、種類や埋設状況、継手、基幹管路であるかなど重要度に応じて更新する基準年数を設定しております。例えば、铸铁管については、重要度が高い場合は40年、その管路が折れても代替する管路によって水が回ってくるような比較的重要度が低い場合は60年のように、40年から100年で細かく設定しております。近年導入している耐震性を有する「耐震継手」については100年としております。

委員 最近は特に地震が多いですね。この付近では大阪北部地震で給水管が破裂して水が吹き上がっている場面がテレビでも大々的に報道されておりました。また、水道管の種類は少し異なりますが、和歌山市の紀の川であと5年ぐらいはもつと言われていた管が早々に折れたということもありました。我々消費者は、非常時の断水が一番困るので、水道管は大丈夫かということに高い関心を持っています。予算の関係もあると思いますが、できるだけ早く、前倒して古い管を更新できないかと思っています。新しい管に替えるのは年1%台だったと思いますが、前倒しにして2%ぐらいいできないでし

ようか。

**事務局** そのような御要望もあるかと存じます。水道部では、管路の更新のほか、水が地上に吹き上がる前に地下で漏れてないかを確認する漏水調査を毎年行っております。工事の発注の仕方や効率化、財政を検証しながら、管路の更新スピードを上げられないか考えてまいります。

**委員** 最近地震や台風も多く、台風による大雨の影響で発生した道路陥没によって水道管が外れたりすることもあります。最近の給水管はクッション性や弾力があると聞いていますが、実態はいかがでしょうか。

**事務局** 給水管につきましては、令和5年度からクッション性や弾力のある「ポリエチレン管」を使っていく予定をしておりますが、現在は比較的、弾力性や耐衝撃性を有するビニールパイプを使っております。台風の被害では道路陥没のほか倒木被害などもございますので、幅広く対応策を検討してまいります。

**委員** もう一点、鉛管については残り少なくなっており、ほとんど解消されていると思いますが、あと何%が残っていると聞いたことがあります。これについてはデータとして、何件残っているのか水道部で把握されているのでしょうか。

**事務局** 令和2年度末時点で取りきれない鉛製給水管は約8,000件、令和3年度末時点で残り約6,700件と把握しております。資料5ページの「鉛製給水管率」につきましても、鉛製給水管使用件数をもとに算出しており、今後も解消に向け取り組んでいきたいと考えています。

**委員** 安全で安心な水という面では、早く取り替えると良いと思いますので、これからも御努力いただきたいと思います。ありがとうございました。

**会長** ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

**委員** 管路の耐震管率についてお尋ねします。資料8ページを見ると、耐震管と非耐震管があるようですが、これから改善や耐震化をしていかなければならない管路の比率を教えてください。また、資料14ページにあるように比較的若い方たちに情報が伝わっていない、若い方の水道への関心が低いというアンケート結果が出ています。当たり前に出る水が、当たり前に使っているというのが一般的な感覚ではないかと思っておりますが、この結果に対してどのような対策を講じていこうと

お考えなのか、この現状に対してどうお考えなのかお聞きしたいと思います。

会 長 では事務局の方よろしく申し上げます。

事 務 局 1点目の管路の耐震管率についてお答えします。基本的には、法定耐用年数を超過した管路を改善していく必要がありますので、その管路の比率は、令和3年度末時点で38%であり、吹田市内の水道管の総延長は約738 kmですので、約280kmが法定耐用年数を超えた管路延長です。しかし、先ほど御説明いたしましたとおり本市では独自に更新基準年数を設定し、この基準に基づき計画的な更新、改善を図っております。従いまして、「吹田更新基準を超えた管路延長」を「改善しなければならない延長」としますと、その延長は総延長の6%に相当する約41kmです。

事 務 局 また「耐震化されていない管路延長」を「耐震化していかなければならない延長」としますと、その延長は総延長の76%に相当する約562kmです。なかなか管路の耐震化が進んでいない状況ですが、現在、年間約8kmのペースで経年管更新と年間2km以上の基幹管路の耐震化を進めているところでございます。

委 員 管路の長さを言われてもよくわかりませんので、これから改善・耐震化をしなければならない管路の割合を教えてください。

事 務 局 基本的には、資料8ページの管路の耐震管率の図にある管路を全て青くしていくことを目指してまいりまして、令和3年度末時点で耐震管は全体の3割弱となっておりますので、耐震化していく必要がある管路は7割ほどあることとなります。しかし現在水道部では、折れてしまうと断水の影響が大きい、根元となる太い水道管いわゆる「基幹管路」の耐震化を進めております。また先ほど年間8kmのペースで古くなった管路の更新を行っているとお伝えしましたが、管路を更新する際に耐震管に取り替えてしておりますので、耐震化は進んでいくと考えております。基幹管路については年間約2kmのペースで耐震化を進めておりますので、結果として管路全体では1年間で8km以上の耐震化を行うことができていると考えております。しかしながら、資料8ページの表のとおり市内にはかなりの管路が張り巡らされている状況でございますので、重要度を見極めながら、計画的に耐震管に取り替えさせていただきたいと思っています。

もう一点、若い方への広報について御質問をいただきました。資料14ページにありますように、どのような方をターゲットに、どのように広報を進めていくかを部内で考え広報戦略を策定しました。この方針に基づき広報を進めていきたいと思っています。また、今年度は大学生の方と官学連携の取組を進めています。大学生の方と連携して様々な取組を進め、少しずつ若い方に水道事業に目を向け

ていただく機会を増やすことで、関心を高めていければと思っているところでございます。以上でございます。

**会長** 普段の生活で色々な事を考える中で水道の位置づけが低くなっているのかもしれませんが、災害時は特に重要になりますので、水道を自分事にしてもらうための仕組みづくりも大事だと思います。他にいかがでしょうか。

**委員** この2年間で2つ、これからの2年間で2つお聞きしたいと思います。

これまでの2年間について、資料7ページ、強靱の施策4「基幹管路の耐震適合率」を1点目としてお聞きします。計画が55%に対して、令和3年度実績が53.3%となっている一方、その下の「重要給水施設管路耐震化適合率」は、計画の11.6%に対して令和3年度実績が21.7%と大きく改善が進んでいる状況です。先ほどの説明にあったとおり、基幹管路の耐震化を優先的に進めているといいながら、計画を下回っている一方で、それ以外の耐震化は進んでいることから、計画を下回っているにも関わらず他を優先しているように見えなくもないと思います。工期のタイミングや場所の影響かもしれませんが、計画値と実績値の差についてどのようにお考えでしょうかというのがこれまでの2年間の1点目です。

2点目として、9ページの持続に関する指標についてお聞きします。私は他の水道等の委員会にも参加させていただいておりますが、吹田市さんは持続に関する指標は非常に良好で、他都市から羨ましがられるのではないかと思います。例えば、「経費(料金)回収率」100%超えというのは、目標にはするけれどもなかなか達成できない事業体もあると思います。「経費(料金)回収率」の計画が114%に対して、令和3年度実績が124%ということで優良にも見えますが、逆の言い方をすると、料金を取り過ぎているのではないかという声もあると思います。これは新型コロナの影響等によるものか分かりませんが、計画に対して実績が良すぎるという点について、どのようにお考えかお聞かせいただければと思います。

これからの2年間の1点目は、資料11ページの環境に配慮した事業の推進の「配水量1㎡当たりの電力消費量」についてです。全国的に見て「配水量1㎡当たりの電力消費量」は約0.5kwh/㎡だと思います。分母が何かにもよりますが、0.28kwh/㎡という計画値は高いようにも見えます。計画を立てた2019年の後の、2020年に菅首相から脱カーボンの話があり、二酸化炭素を倍近く削減しないといけないということになりましたが、計画値の見直しについてどのようにお考えでしょうか。また、先ほどお話にあった小水力発電や太陽光発電についての管理指標があるのかはわかりませんが、カーボンニュートラルを目指すという意味でいくと、省エネと創エネの視点があり、創エネのPV(太陽光発電)や小水力発電に関する目標値や管理指標が今後必要ではないかと思いますが、そのあたりはどのようにお考えでしょうか。

2点目は、今回の議題とは少しずれてしまいますが、9月上旬の新型コロナウイルス感染症対策本部の会合で、厚生労働省の組織見直しが決定され、令和6年4月に水道行政の所轄官庁が厚生労働省から国土交通省と環境省に移管されることになりました。水道と下水道を一体的に管理することで効率化を図るという話も意義として出ていたと思います。水道と下水道の距離が近い自治体もあれば遠い自治体もありますが、吹田市さんは水道と下水道でどのくらい連携されているのか、また、これからの水道と下水道の連携についてどのようにお考えでしょうか。

**会 長** ありがとうございます。4つ御質問をいただきました。1点ずつ回答をお願いします。

**事 務 局** まず1点目としまして、資料7ページの「基幹管路の耐震適合率」が計画値に対して実績値が未達ではないかと御指摘をいただきました。本市では、管路総延長約740kmのうち、約80kmを基幹管路と位置づけており、このうちの約5割、40km強が耐震化済みで、耐震管の延長は計画値どおりです。しかし、計画で撤去を見込んでいたもの実際には撤去できていない既設の基幹管路がございます。「基幹管路の耐震適合率」という管理指標は、「耐震適合性のある基幹管路延長÷基幹管路の総延長」によって算出します。従いまして、分子につきましては、計画値どおりですが、分母となる基幹管路の総延長が計画値どおりに減っていないため、管理指標が未達となっております。

この撤去できていない基幹管路区間は、現在休止中の区間ですが、管内のスペースも含めて、ルートの片的に片山浄水所における構外井戸水源の導水に活用を現在検討していることから未撤去となっております。このため、当区間は今年度中に用途を変更し、計画値を満足する見込みです。

一方、「重要給水施設管路耐震化適合率」の令和3年度実績が計画値と比較して、伸び率が高くなっている点については、当初想定していなかったルートではありますが、非常時に「耐震管路」を使用して配水することが可能と確認できた結果、管路の耐震適合性を有する重要給水施設箇所数が8ヶ所増えたことに因るものです。この「非常時に使用が確認できた耐震管路」とは、片山浄水所と泉浄水所を繋ぐ直径1000mmの新連絡管です。今年の7月に泉浄水所付近で不発弾の撤去が行われた際、泉浄水所では浄配水処理を停止しましたが、この連絡管を使うことで片山浄水所からの配水に切り替えることができました。事前に様々な実験や確認を行った上で、こうした対応を含め、一部の重要給水施設にも給水が可能となったことから、このような伸び率となりました。

**事 務 局** これからの2年間の1点目、省エネの部分についてお答えします。将来的に再生可能エネルギーの割合を何%にするという具体的な目標数値は掲げておりませんが、令和元年度(2019年度)からは佐井寺配水場で小水力発電を実施しております。また今年度につきましては、津雲配水場で大阪広域水道企業団からの受水圧を利用した小水力発電の工事を現在進めているところです。また太陽光発電につきましても、津雲配水場の配水池の上や片山浄水所の建屋の屋上への設置を計画

しており、できるところから順次進めていく方針で取り組んでおります。

また「配水量1㎡当たりの消費電力量」については、本市では複数水源として地下水源を持つことが非常に重要であるという考えのもと、約300mの深井戸から地下水をくみ上げて処理をしておりますので、それに係る水中ポンプの電力量が大きくなるということを考慮し、0.28kwh/㎡を目標値として設定しております。しかしながら、マスタープランにも掲げていますように、将来的には泉浄水所は浄配水機能を停止しフェードアウトしていく計画となっております。この泉浄水所は、標高の低い地域に位置しておりますので、ほとんどがポンプ圧送、つまり電気を使って送配水しております。フェードアウトした後は、標高約50mに位置する片山浄水所からポンプを使用しない自然流下で泉浄水所のエリアを賄う計画となっておりますので、最終的には「配水量1㎡当たりの電力消費量」は令和3年度の目標値や実績値より低くなっていくと考えております。以上でございます。

**事務局** 続きまして、この2年間の2点目、資料9ページの「経費(料金)回収率」についてお答えします。「経費回収率」とは、水を1㎡当たり作るコストを水1㎡当たりどのくらいの金額で回収したかというものです。1㎡当たりの水を作る時の費用である「給水原価」が当初の見込みを下回っていることが、計画値を上回っている要因であると考えております。先ほど御指摘いただきました、料金水準が適正であるかという点につきましては、今後推移を見ながら検証していきたいと思っております。以上でございます。

**部長** これからの2年間の2点目、下水道部との連携についてお答えします。委員がおっしゃるように、令和6年度から水道行政の管轄が国土交通省と環境省へ移管されます。この件に関しましては、厚生労働省の感染症対応能力を強化するために、水道行政を厚生労働省から出すことが先に決められた後、どの省庁に振り分けるかとなり、下水道運営・施設整備等の知見を有する国土交通省へ水道整備・管理部門を移管することで一元的に管理することができ、効率的ではないかという流れで決定されたものと認識しています。

また、下水道部との距離が近いか遠いのかと言いますと、私どもは上下水道部ではなく水道部です。北大阪地域では、豊中市、箕面市、池田市は上下水道局(部)で、高槻市や茨木市は水道部単独で事業を行っています。本市では、メーターの検針をはじめとする料金関係業務など可能な範囲で連携しております。その他の業務については、上下水道事業を統合している他事業体に聞かしても、計算どおりに業務の効率化を進めることは難しいようです。管理部門では、上下水道統合によって総務担当の職員を1人から2人減らせた程度で、そのためにかかった手間は膨大であったと聞いております。また、大阪府においては目指す将来像として府内の水道事業がまとまって経営していく「府域一水道」という理念があります。現時点では、府域一水道を見据えて水道部単独で事業を進めていき、できる範囲で下水道部と連携をしていく方針でございます。

**管 理 者** 令和6年4月から水道行政の監督官庁が施設整備や下水道運営の知見を持つ国土交通省と環境省に移管されることになりましたので、委員がおっしゃるように、今後、各事業体において上下水道統合の議論が増えていくのではないかと考えております。実は20、30年前、流行りのように上下水道の統合が進んだ時期があり、統合のメリット・デメリットを整理するために他事業体に伺い業務調査を行いました。統合して庁舎は同じであれども全く違う業務を行っている実態が多く見受けられました。私は公衆衛生の確保という観点から上水道事業の本質的な業務を考えた場合、国土交通省へ移管され上下水道の所管省庁が同じになったからといって、一括りに上下水道の統合の話をするべきではないと感じております。先ほど部長からもありましたが、水道部としては、本質的な業務を考えた上で水道部単独で事業を進めていきたいと考えております。

**委 員** ありがとうございます。省エネや脱炭素については、できることから積み上げていくボトムアップ型と、カーボンニュートラルを目指すために何ができるか、何をしなければならないかを考えるバックキャスト型の両方の考え方が必要だと思います。これからの2年で今後どうしていくかを考える際には、バックキャスト的な考え方も取り入れる必要があるのではないかと考えていますので御検討いただければと思います。

監督官庁の移管について管理者、部長からいただいたコメントはよく分かりますし、おっしゃるとおりだと思いますが、上下水道を統合して組織的に一体となることを望んでいるわけではありません。上下水道に共通する課題として施設の老朽化や人口減少などがあると思いますし、業務の効率化という点で、下水道では下水道DX（デジタルトランスフォーメーション）を進める中で維持管理の仕組みとして共通プラットフォームを作るなど、これまでにはない新しい部分もでてくると思います。組織的に統合という対面的なことではなく、先ほど申し上げました上下水道に共通する課題解決のための連携やDX（デジタルトランスフォーメーション）推進など新たな部分において、実態として事業運営の効率を上げていくための方法を今後検討していく必要があるのではないかと個人的には思います。しかしながら、過去に上下水道の統合や一体化の議論があったことや市としてのスタンスは十分理解できます。ありがとうございました。

**会 長** ありがとうございます。この後、皆様から一言ずつコメントをいただきたいと考えておりますので、そしてお話いただいても良いですが、この時点でどうしても確認したい内容があれば手短かにお願いします。

**委 員** 資料の管理指標の見方についてお聞きします。優位性を示す矢印が上向きと下向きの2種類ありますが、どの数字と比較して優位性の矢印をつけているのか、管理指標の見方を教えていただきたい



いと思います。よろしくお願ひします。

**事務局** 説明不足で申し訳ございません。資料9ページの「経費(料金)回収率」の「給水原価」を例として説明いたします。「経費(料金)回収率」の優位性は上向きの矢印となっています。これは「数値が高ければ高いほど優れている」という意味です。逆に「給水原価」については優位性の矢印が下を向いています。これは「数値が低ければ低いほど優れている」という意味です。このため、数値が高ければ高いほど優れている「経費(料金)回収率」は、令和3年度の実績は124.2%で、計画値(見込み)の114%を上回っており、計画値よりも優れているという見方になります。

**委員** 実績が計画値より低ければ、矢印は下向きになるということですか。

**事務局** いいえ、優位性の矢印は絶対的なものであり、実績値や計画値の数値によって、向きが変わることはありません。見方としましては、絶対的な優位性の矢印を参照しながら、実績値と計画値を比較していただくこととなります。「給水原価」につきましては、たまたま計画値よりも実績値が低くなっていますが、優位性の矢印を見ると数値が低いほど優れていることとなりますので、「給水原価」の実績値は良好であるという見方になります。

**会長** 矢印は実績を示しているものではなく、実績値や計画値が高い方が良いのか、低い方が良いのかを見るためのものですね。

**事務局** そのとおりです。

**会長** 矢印というのは確かに気になりますよね。矢印の解釈の仕方については、最初に確認する必要があると思います。他によろしいでしょうか。

**委員** 資料12ページの府域水道事業の動向について、統合済みの市町村が大阪府の端に偏っていることが確認できます。この地図で吹田市だけが緑色に着色されていますが、これは説明時に強調するために緑色にしているのか、他に何か意味があるのか、教えていただければと思います。

**事務局** おっしゃるとおり、統合済みの事業体につきましては、赤色に着色しております。統合した事業体と反対の色である黄緑色で吹田市を着色することとで、府内全体を見渡した時に吹田市の位置を強調し、見やすくすることを意図しております。

委員 わかりました、ありがとうございます。

会長 貴重な御意見と活発な御議論ありがとうございます。それでは次の案件に移りたいと思います。冒頭に申し上げましたとおり、この第13次水道事業経営審議会は今日が最後の会議となります。「第13次吹田市水道事業経営審議会を振り返って」ということで、本日お集まりいただいた委員の皆様から、2年間の御感想や御意見を承りたいと思います。もし特に何もなければ、「特にありません」と仰っていただければと思います。時間の関係もありますので、ひとり1分以内程度でお願いしたいと思います。

委員 先ほど言ったとおり、吹田市さんは非常に良い事例だと個人的には思っています。トップランナーのモデルケースとして、良い面に加えて、なぜうまくいっているのかという点を他都市に発信してもらえれば良いかと思います。非常によくやっていただいて、説明も非常に分かりやすかったです。ありがとうございました。

委員 今年度は大学で対面授業が始まり、あまり参加することができず申し訳ございませんでした。その中でも、官学連携では水道部さんに変にお世話になりました。若年層へのPR方法や方策については、私自身が若者と近い位置にあるということを有効に活用して、今後も継続的に連携してまいりたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

委員 今回の資料を拝見した際、達成できている項目もあれば未達成の項目もありました。未達成の項目については、このまま放置すれば当然未達のレベルが拡大していき、次の2年間でも取り戻すことができないことになってしまいますし、そもそも取り戻すのが難しいのではないかと思う項目もありますので、取り戻すための算段をしっかりとっていただきたいと思います。この点については、次期審議会が始まる時に、どのように取り戻そうとしておられるのかも含めて御紹介いただけると非常に参考になると思いますのでよろしくお願いいたします。

委員 特にございません。今後も引き続きよろしくお願いいたします。

委員 色々とお世話になりました。前回の審議会は水道料金の値上げが非常に大きなテーマでしたが、今回の審議会は値上げの議論ではなかったのも、プレッシャーが少なかったと感じております。また今期の審議会では片山浄水所を見学させていただきました。水道施設は24時間動いているわけで、どのように管理しているのかと思っていましたが、人がほとんどいなくても機械できちんと管理できるような施設になっていると聞き勉強になりましたし、非常に役に立ちました。ありがとうございました。

- 委員 2年間ありがとうございました。委員になったことで、水道をどのように考えているのかといった事業を運営する側の目線を学ぶことができ、非常に役に立ちました。ありがとうございました。
- 委員 今期の会議には、前回の片山浄水所の見学と本日の会議にしか参加できませんでしたが、一主婦として毎日使っている水道について、様々なことを知ることができたのは本当に貴重な経験で、それを自分だけのものにせず、私の知ったことを伝えていけるような立場になっていけたらと思っております。本当に色々と学ばせていただきましてありがとうございました。これからも学んでいきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。
- 委員 私は4期ほどこの審議会の委員をしていますが、今期については欠席が多く、内容についていけない部分はあったものの、今回出席して、以前に比べて吹田市がすごく良くなっているという印象を持ちました。すごく市民的な考え方ですが、他の市町村に比べて吹田市の優位性を感じられたので、このペースで今後もやっていただけたらと思っております。以上です。今後ともよろしくお願いいたします。
- 委員 教育に携わった者の視点から、令和2年と令和3年は新型コロナの影響で浄水所見学が中止になったことはとても残念に思っております。また、応急給水所が小学校に設置されましたが、大人ばかりが考えるのではなく、教育の場で水道の大事さを伝え、子どもたちの目から水道を考えることが大事な時代になってきているのではないかと思いますので、よろしくお願いいたします。以上でございます。
- 委員 正直今までは蛇口をひねると当たり前に水が出て、逆に止まった時はなぜ止まるのかと、普通の市民のような感覚で捉えていましたが、今回初めてこのような審議会に参加させていただき、片山浄水所を見せていただきましたし、実際に働いている方のお話も聞かせていただきました。裏方という失礼ですが、あって当たり前、上手くいって当たりの部署ですから非常に大変な部署だと思います。先ほど、水道部の活動を知っている方が5割以下だという説明もありました。認知度が低いということで、今後は広報の仕方をもう少し考えていただきたいと思いますが、広報をする中で大変さをもっと前に出しても良い気がします。水道や電気といった、あって当たり前のもののために、いかに皆さんが努力しているのかよく理解できましたので、ぜひ広報に力を入れて、吹田市民の多くの方、特に認知度の低い若い方に、水道部の活動を知っていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

- 委員 2年間学ばせていただきましてありがとうございました。千里ニュータウンプラザで始まり、市役所本庁の会議室、片山浄水所、本日は水道部庁舎と、色々な施設を見させていただく中で、水道事業への理解を深めることができました。大変な部署だということも理解いたしました。ありがとうございました。
- 委員 大変お世話になりました。1点、検針についてお伺いしたいと思います。今年に入ってから正確には記憶していませんが、検針に来られた時「検針をさせていただきました」というメモがポストに入っており、水道料金についての検針票や請求書が後日、封書で届きます。これはすごく無駄ではないかと思うのですが、どのような経過でこうなったのか教えていただきたいです。
- 会長 事務局よろしくお願ひします。では別室の方からよろしくお願ひします。
- 事務局 検針のお知らせ票は検針時に料金のお知らせとして投函しております。料金の支払方法として、納付書、口座振替などがありますが、検針後にすぐ料金を請求するのではなく、検針後に確認をして請求書をお送りさせていただくという方法をとっております。
- 委員 検針に来られた時、使用水量や料金のお知らせが投函されているわけではなく、単に「検針させていただきました」というメモ書きが入っていて、後日、請求書が封書で来ているということですが、いかがでしょうか。
- 事務局 申し訳ございません。後程詳細な事情を聞かせていただき、確認させていただきます。
- 委員 よろしくお願ひします。
- 委員 古い話なので正確な年月日が飛んでしまいましたが、若いころに魚をつって遊んだ虹ますセンターがこの間に近代的なすばらしい浄水施設に生まれ変わりました。これからの吹田市の水道行政に大変なプラスになると思っておりますので、今後とも施設を十分に生かして水道行政を頑張ってくださいと思っています。
- 委員 2年間どうもありがとうございました。仕事上いろんな水道局を回っていますが、吹田市さんは、ずば抜けてすごいなと感じています。鉛管の更新も含めて、他市とは全然違う対応をされているので、今後とも頑張ってくださいと思います。あと、若い方への広報については、ここにいる年代の人がいくら考

えても若い方たちには通じないと思いますので、大学との連携の中で学生さんの声を重視して、若い方への広報を考えていただければと思っています。

**委員** 2年間ありがとうございました。日頃あまり考えることもない、吹田市の水道行政に関わることで、細かい内容が若干なりとも理解できたと思います。また、今般の新型コロナウイルス感染拡大によって、水道の使用量が相当増えたということも知りました。家庭で過ごす時間が長くなったことが主な要因であると理解していますが、給水収益が令和2年度では1億円、令和3年度が2億円増と、コロナが増収に貢献しているということで変な感じもしますが、コロナによってたくさんの方々が仕事や家庭生活など色々な面で影響を被ったことが、こういったところに数字として出てきたことも初めて分かりました。この2年間どうもありがとうございました。

**会長** 皆様本当にありがとうございました。最後に副会長にコメントをお願いしたいと思います。副会長におかれましては、第8次の経営審議会から12年間にわたって、御参画いただいておりますが、今期をもって退任されます。この2年間の感想や、12年間吹田市の水道事業を見てこられたことを踏まえて、これまでの変遷も含めて御感想や御意見、またこれからに向けてコメントをいただければと思っています。副会長よろしく申し上げます。

**副会長** 会長からありましたように、8次から13次までの6期の間、経営審議会には大変お世話になりました。本日もですが、この審議会は、それぞれの立場から様々な意見を出しながら活発に議論をする中で課題を抽出し、それに水道部が対応していく場です。過去には、市から諮問がございまして、それに対して審議会で議論をして答申という形で市長へ返えさせていただいたこともありました。その1つとして、先ほどありましたように、水道料金の改定がありました。水道事業の収入は水道料金ですから、水道料金で各事業を進めていくことが重要で、そのための事業計画案をこの場で議論してきました。その結果、すいすいビジョンやマスタープランを策定する一つのお助けみたいな形になれたのではないかと考えております。

先ほど、新型コロナの影響で料金収入が増えたというお話もありましたが、口径別の料金体系に変更したことや基本料金を改定したことが影響しています。以前は口径が小さい方については、水道部が赤字を背負っていました。しかし、基本料金を上げることによって赤字幅が少なくなり、新型コロナの影響で大口使用者の使用量が減ったとしても、小口径の方がたくさん水道を使用したことで、料金収入が増加したという変遷がございます。

これからも水道は非常に重要な財産ですので、今後とも色々な議論をされてこの経営審議会を更に盛り立てていただければありがたいと思います。最後にこれまでの間、理事者の皆さん本当にありがとうございました。

**会 長** 長きにわたって審議会に御貢献され、水道料金の改定やビジョン策定など色々な場面を見てこられた副会長からコメントをいただきました。ありがとうございました。

水道料金の値上げなど吹田市では先導的な取組を進めてられていますし、もちろん課題はありますけれども、本日のコメントにもありましたように、良いパフォーマンスを示されていると思います。私自身は、今期会長を務めさせていただきましたが、昨年度はコロナ禍で開催が非常に難しい状況にあり、4回しか開催できませんでした。その中でも吹田市の皆様は非常に御尽力され、私自身は所用のため参加することはできませんでしたが、片山浄水所の見学会は非常に重要な機会だったと認識しております。また、各会議では様々な御意見をいただいて、本当に有意義に活動することができたと思っております。

新型コロナという想定もしなかったようなことが起きたように、気候変動やそれに伴う豪雨や災害、地震も含めて、今後様々な危機が起こり得ます。その際、基幹インフラである水道がどのように対処していくか、対応するための計画はどうするのか、このあたりは非常に重要な問題になってきます。委員の皆様や市民の皆様の色々な御意見はもちろん、若い方にどう関わっていただくのか、理解していただくのかということも非常に大事なポイントになると思いますので、若い方を対象とした浄配水施設の見学会など、若い方が水道に触れる機会を増やしていただければと思います。最後に改めまして、4回の間、皆様には活発に御議論いただきありがとうございました。これにて本日の議事はすべて終了いたしましたので、事務局にお返ししたいと思います。事務局の方よろしく申し上げます。

**事 務 局** ありがとうございました。最後に、水道事業管理者よりお礼の御挨拶を申し上げます。

**管 理 者** (挨拶)

**事 務 局** それでは閉会いたします。ありがとうございました。